

宮崎県総合博物館 第3期中期運営ビジョン評価表（令和3年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

内部評価 4…指標を大きく上回った 3…指標を達成できた 2…指標をやや下回った 1…指標を大きく下回った

外部評価 4…期待以上でできた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要

※ 内部評価及び外部評価の総合評価は、平均値の小数点第1位まで（第1位を四捨五入）

☆外部評価は、宮崎県博物館協議会委員による評価

(1) 調査研究

項目	評価指標		令和3年度実績	内部評価			外部評価			
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価		
1) 調査研究成果の公表	研究紀要の発刊	年1回	研究紀要1回	<ul style="list-style-type: none"> 3月に8論文・報告からなる「研究紀要第42輯」を発行できた。本県の自然史、歴史等の解明に大きな貢献が期待できるものであった。 次年度の研究紀要でも、水系別総合調査研究（五ヶ瀬川・北川水系）の成果の一部の報告を掲載する予定である。 			3	C	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究報告会について、リモートの活用により参加者の幅を拡げるなどの工夫に取り組んでおり、評価できる。 大型のイベントを開催している中、それぞれの専門分野について、1題以上の調査研究を実施し報告したことは期待に応えるものと評価します。 研究紀要を年1回刊行し、かつ調査研究報告会も実施されていることから、調査研究に関する指標に関しては達成出来ていると評価できる。今後も日々の多忙な業務の中であっても調査研究活動を継続頂きたい。 コロナ禍において定期的に『研究紀要』を発刊し、また調査研究報告会を開催できたことは良かった。なお『研究紀要』には文献掲出の書式が必ずしも適切ではないものがみられ、編集委員会等において原稿受理時にでも指摘・改善されることを希望する。 意欲的な調査が進められており、コロナ下での調査研究に御苦労を感じる。総合博物館としての特色からすると、歴史部門の量がもう少し増えてもよい。職員構成の事情もあるかと思いますが、 研究紀要が予定通り発刊され、五ヶ瀬川・北川水系調査の結果等、有意義な報告がなされた。調査研究報告会は、対面・遠隔のハイブリッド形式で行われ、外部参加者としては、大変ありがたかった。ハイブリッド型は、集音や画面共有などで難しい点もあるが、遠隔地からの参加が可能であり、より円滑な運営ができるよう、今後ともご検討いただきたい。 多忙な業務のなかで、詳細な個別研究をまとめた研究紀要の刊行を評価する。本県の自然史解明に大きく寄与している。 	3.1
	調査研究報告会	年1回	1回 (3/8開催)	<ul style="list-style-type: none"> 3月に職員10名が調査研究の結果や収蔵資料に関する内容、水系別総合調査研究に関する内容についての報告を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため館外の関係者はZoomによるリモート参加として実施し、職員28名のほか博物館協議会委員1名や県文化財課職員1名、博物館等協議会加盟館員5名、県埋蔵文化財センター職員1名、前博物館協議会委員1名にも参加いただき、所期の目的を十分に達成できた。 						

(2) 収集・保存

項目	評価指標		令和3年度実績	内部評価			外部評価			
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価		
1) 収集・管理	資料の収集	2,500点 (年平均500点)	781点	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集、図書・文献の収集、デジタルデータは年平均の目標点数を上回っている。収集資料の整理・登録は下回った。デジタルミュージアム登録数は221件であった。 各部門の収集資料は以下の通り。動物部門ではマッコウクジラの全身骨格標本、脳油、ダイオウイカの顎板、貝殻標本、昆虫乾燥標本、植物部門ではさく葉標本、地質部門では哺乳類生体復元模型、宮崎層群基底ボーリング資料、理科教育用教材標本、火山噴出物標本及び県産化石標本や岩石鉱物標本、考古部門では鏡鑄型、歴史部門では稚児鑑、東京オリンピック・パラリンピック関連資料、民俗部門では、ステレオ、神楽面などの収集を行った。 収集・登録した資料は適切な環境下で保存し、展示や体験用に活用する予定である。今後も引き続き資料の所在情報の収集や館外調査を実施し、重要な資料の収集に取り組むとともに、未登録資料の整理・登録を行う。 			最終年度に評価	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 目標を、ほぼ達成できている。 動物部門のマッコウクジラの標本の完成は、収集も含め、館内は勿論、館外との良好且つ親密なる協力体制がうかがえる。保存については、基準通りに実施できている。総じて期待以上と評価します。 資料保管に対する取り組みは博物館にとって大変重要な役割の1つであり、滞りなく着実に実施されていると評価できる。 新規資料の収集には偶然性が入ると思われるが、整理・登録は計画を立てやすく、またコロナ禍においても取り組みやすい業務ではないかと推測している。しかし整理・登録数は昨年度525点、一昨年度が740点と、毎年目標値を下回っており、新規資料の受け入れに追われておられるのではないかと懸念している。言うまでもなく資料の整理保存は博物館業務の重要な柱の一つであり、ぜひ整理・登録を計画的に進めてほしい。 歴史・民俗分野の資料収集は、予算・収蔵庫のこともあるが、不足する分野・必要な史資料をもとに、事業計画をたて、集中的に進めないと効果を得にくいのではないかと考える。民俗であれば、海関係・信仰関係、地域関係など、焦点を絞って数年計画で行うのも一つの方法である。 資料収集は単年度平均値を上回る実績をあげている。一方、整理・登録については、目標値を下回る傾向があり、最終年度まで計画的に進める必要がある。保存に関しては、目標通りの実績をあげられている。 目標数値に達しない分野もあるが、良く収集されている。 	3.1
	図書・文献の収集	5,000点 (年平均1,000点)	1,023点							
	収集資料の整理・登録	5,000点 (年平均1,000点)	525点							
	合計	(年平均2,500点)	2,329点							
2) 保存	トラップ調査	年12回	12回	<ul style="list-style-type: none"> 本館では平成23年度からIPM（総合的虫菌害管理）の考えを取り入れた資料保存に取り組んでいる。令和3年度も全職員によるIPMウォッチング、学芸課担当職員によるモニタリング調査を計画どおり実施することができ、日常の点検も丹念に実施し、虫菌害の発生を抑制した。 月1回、適切な環境を維持するために学芸課職員による収蔵庫の目視・清掃を確実に実施することができた。 			3			
	IPMウォッチング	年12回	12回							

(3) 展示

項目	評価指標		令和3年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1) 入館者数	本館入館者数及び民家園入園者数	年平均17万人	本館入館者数 137,753人 民家園入館者 52,976人 合計 190,729人	<ul style="list-style-type: none"> 本館の入館者数については、例年10万人程度で推移していた。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、夏の特別展、博物館講座やイベントなどが中止となり、本館入館者数は56,194名と大幅に減少した。令和3年度は、感染症対策を徹底しつつ開館し、特別展やイベントも実施することができた。結果的に本館入館者数は137,753名の利用となり、平成30年度の数値程度に回復した。このうち特別展観覧者数が4つの展示会の合計で110,039名となっており、改善の大きな要因となった。 団体利用は令和元年（平成30年）度に542団体の利用があったが、令和2年度は、コロナ禍により233団体に落ち込んだ。令和3年度は、396団体まで回復したが、旧来のレベルに回復するには感染症のさらなる改善が待たれるところである。 民家園については、屋外施設であり、コロナ感染症の影響は限定的であった。昔ばなし講演などのイベントの一部中止はあったが52,976名と堅調な利用状況となった。 常設展示室における資料入れ替え、1階エントランスホールや2階ロビーを活用したロビー展の開催などのサービスの向上やSNSを活用した情報発信を行っている。 	3		<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、特別展やイベント等の実施により、入館者数が伸びているのは、徹底した感染対策で安心・安全な環境づくり、情報発信、展示の工夫等、職員の努力や創意工夫によるものであり、大変ありがたい。 ロビー展の年19回実施は高く評価でき、ニーズに応えたタイムリーな実施だったと思う。 団体利用より家族などの個人利用が大きく増加しており、ウイズコロナ、アフターコロナでの団体利用の増加を促す事業実施を期待したい。 「きのこランド」と「絶滅モンスター展」を見て頂きました。展示会のネーミング、事前広報、そして展示内容とも、とても興味深く、楽しい内容でした。大人から子供まで楽しめる内容だったと思います。その他の特別展も参加者数が多かったようで、準備は大変だったとお察ししますが、コロナ禍では大成功だったと思います。 感染対策をとりながら特別展やイベントを実施し、平成30年度の入館者数に回復したことは大変大きな成果である。 コロナ禍にあって入館者数は減少はしているが、感染症対策を行って特別展など実施している。また、常設展での入れ替えも度々行っている。 特別展やイベントの事前のメディア等による発信は素晴らしいと思います。また、企画された内容が、幅広い年代層に興味関心がある内容であったことや常設展も定期的に入れ替えをするなど工夫がなされていたと思います。その結果、感染対策を徹底されて入館者数を増やすことができたのではないのでしょうか。 コロナ禍とはいえ、特別展の効果がより入館者数が増えたことはよかったですと感じた。 未だコロナの影響があるなかで、令和元年度の7割程度まで団体利用が回復していることに職員の方々の努力、また日常を取り戻しつつある利用者の生活が垣間見えるようで、嬉しく思いました。 新型コロナウイルス感染症の影響下の厳しい状況の中において、入館者数が、目標値に達成したことは大いに評価できる。特に、感染症対策に配慮しながら、特別展やロビー展などは、工夫を凝らした内容で積極的に取組を進めており、利用者の満足度も高く目標達成に大きく貢献した。今後も、今回のコロナ禍で得たことを教訓とし、県民ニーズを捉えたくさんの県民に利用してもらうための取組を進めて欲しい。 特別展観覧者数が大きく伸びている点は、高く評価できる。まず一人でも多くの県民に博物館に足を運んでもらうことが大事であり、今後ともよい企画をお願いしたい。 50周年を記念する「絶滅モンスター展2021～恐竜VSほ乳類～」は、人気の高いテーマだけに、マンネリ化しがちであるが、独自の切り口が多々感じられ、展示規模も内容も、丁度良く、来館者に高評価なものでした。また、「発見！きのこランド」は、まさに、宮崎県の博物館ならではの取り組みが感じられ、展示物の収集、展示、解説ともに高評価でした。成人、年少者、全ての来館者に、きのこへの興味をそそる展示でした。 COVID-19の影響が残る中、来館者は目標値を超えており、大健闘であったと評価できる。特別展における来館者の年齢層（特に高校生以下に当たっては学年層）が分かる資料と分析があると今後の特別展を考える上でも有効ではないかと考える。 「絶滅モンスター展」が入館者数増に大いに資したようで良かった。個人的には特別展「発見！きのこランド」が未知の宮崎を知ることで、大変興味深い展示であった。 1.常設展示はリニューアル後、歴代の職員によってより深く、より広い視点で修正・展示替えがなされ、充実してきている感を深くした。展示は基礎の上に、価値が集積されていくものだ」と敬意を表した。2.「きのこランド・・・」特別展は、高い専門性と身近な素材への視点と幅広い世代の興味がマッチしたすばらしい企画だった。全国にも放映されるほどの効果があり、職員の皆様の一致した御苦労と努力を感じた。3.エントランス、ロビーの展示は、博物館の視点から他機関との連携をめざした取組で、興味をもって楽しくみることができた。館内を活用する企画は、その内容と共に大きな力を必要とし、多忙さを伴うが、この傾向は他施設でも共通した動きでもある。 2つの特別展とも、大変興味深い内容で、県民の関心を引いたと思われる。個人的には、「発見！きのこランド」について、身近だがあまり知られていない菌に焦点が当たり、新しい世界の広がりを感じた。いずれの展示も、来場者満足度が高く、評価できる。 ①民家園が1年365日開園していることに今さらながら気がついた。それと関係があるのか新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きかった時期も、入園者数の落ち込みがさほど大きくなかったことは注目される。機会があれば、どんなときも開園していることをアピールするとよい。 ②コロナ禍のもと、博物館ロスから解放された効果もあったのか、自然科学系の特別展が大きな成功を収めたのは嬉しい。人文系の特別展についても、神楽展に続く「攻めの姿勢」の展示を期待したい。「発見！きのこランド」展は、知っているようで知らないきのこの世界を手堅く・楽しく工夫して表現し、特に宮崎の地域性に軸足を置いている点がよかった。「絶滅モンスター」展は、進化をめぐる壮大なタイムトラベルといった趣の内容だったが、展示の手法は割合単純だった。④アーチャー展は切り口がユニーク。言葉そのものにも、「なんだろう」と興味をそそられる。そういう発想をベースに展開すると、小展示が名物展示として生きてくる。 	
2) 常設展	展示替等回数	年15回	16回 (35点) 動物 1(1) 植物 1(1) 地質 3(13) 民俗 5(10) 歴史 0(0) 考古 6(10)	<ul style="list-style-type: none"> 自然史展示室照葉樹林ジオラマで動物・植物が定期的な資料の入れ替え展示を始めた。地質部門の展示ケースでは世界鉱物年に合わせた展示、資料展示と貸出に伴う展示資料の入れ替えを行った。 歴史展示室のロビーケースでは、考古部門が通常展示していない資料や史料の価値の高い考古遺物をビジュアルを交えながら6回入れ替えをしながら展示を行った。 民俗展示室のロビーケースでは県の伝統工芸品の佐土原人形を季節に合わせて5回入れ替えをしながら展示した。 	3			
3) 特別展	実施回数	年3回	主催事業 3回 貸館事業 1回	<ul style="list-style-type: none"> 主催事業として、巡回展「第41回SSP展」、本館の独自企画で、特別展「絶滅モンスター展2021～恐竜VSほ乳類～」、特別展「発見！きのこランド」を実施した。貸館として宮崎日日新聞社主催の「岩合光昭写真展こねこ」が実施でき、年3回の目標値を超えることができた。「SSP展」は新型コロナウイルスに伴う臨時休館(5/10～5/31)のため、39日の会期が2日間となった。特別展の関連事業も中止にせざるを得ない事業もあったが、多くが感染症対策を充分に行って実施できた。SSP展で講演1回、ギャラリートーク2回を中止した。 来場者数は「SSP展」が5,235人、「絶滅モンスター展2021」が50,248人、「発見！きのこランド」が32,038人とコロナ禍の中でも賑わいがあり、効果的な広報が実施できたと思われる。 本館内で実施した主催事業に係る来場者の満足度は、アンケートによると「良かった」以上が「SSP展」では98%、「絶滅モンスター展2021」では91%、「発見！きのこランド」では92%であり、高い評価をいただき、ニーズに合った企画が実施できていると思われる。 	3	3.3		
4) ロビー展	実施回数	年15回	19回	<ul style="list-style-type: none"> 1階のエントランスホール（エントランスケース、展示スペース）や2階の民俗展示室前ロビー展示を、期間・内容・場所のバランスを取りながら、トピックや季節に応じて全19回実施した。内訳は各部門の企画展示13件、県の他機関・学校の展示6件であった。各部門の展示に際しては、関係機関・個人5か所より協力を得て実施した。 	4			

(4) 教育普及

項目	評価指標		令和3年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1) 学校教育支援	授業支援	年30回	18回	<ul style="list-style-type: none"> 学校等受け入れ校数は197校と前年度の140校を上回った。コロナウイルス感染症の影響は続いているが、遠足や修学旅行での利用が回復しつつある。 生徒に対する授業支援は昨年度の15回を上回る18回を行った。資料貸出については5校への貸し出しを行い、連携事業を行っている学校との資料を使った活動を実施した。教員支援の申込みはなかった。 職場体験学習の受け入れは、コロナウイルス感染症のため実施を学校側が見送ったことから申し込みはなかった。今後も同様の状況の継続が予想されることから、次年度からは学芸課職員を学校へ派遣し、職場体験の講話等での対応を進めることとした。 博物館実習受入は、2大学2人の実習生を受け入れ、実施した。 今後も計画的に、学校教育支援に取り組み、博物館の学校支援のメニューや有効性、資料貸し出しの紹介を行うとともに、資料の活用や開発を進めていく。 	2	1.9	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあり全体的に指標を下回る結果となっているが、学校受け入れ校数の増加や(3)博物館講座等、(5)関係機関との連携は高い実績をあげているため評価を3とした。 展示解説については、昨年度より団体利用数や学校受け入れ校数が増加しているのであれば、もう少し通常解説のうち団体解説の増加が図られたのではないかと考える。事前広報や周知活動が必要である。 コロナ禍3年目で、主催する側も、参加(見学)する側も、それえなりの対応が見えて来たと感じました。それでも、宮崎は他県と比べて一時期感染率が上がり、気を遣われた事と思います。本園も少ない回数ではありましたが利用させて頂きました。ありがとうございました。 コロナ禍で学校受入数や展示解説に係る人数が少ないことは致しかたないとする。改善策にあるように職員が学校に出向き講話をする等の試みを進めてほしい。遠足で利用させていただいた大変好評でした。 コロナ禍にありながら、学校受け入れ校数や授業支援回数が前年度を上回っている。先生方の努力が伺える。 展示解説や民家園事業の目標値が下回ったことが評価の低さにつながっているようですが、実施された内容は、大変好評であったことがわかります。また、学校教育支援も目標値には到達できなかったようですが、学校のニーズに応じた充実した内容となっていたと思います。今後は、教員支援のあり方の見直し等が課題解決につながるのではないかと思います。 県内の学校の遠足、修学旅行の利用は、今後も宮崎再認識のためにも続けていただくとよいと考えます。 コロナで高齢者の孤立が増えているため、地域包括などと協力し交流の場として民家園の利用をこれまで以上に進めてほしい。 新型コロナ感染症の影響下において、関係機関との連携活動や学校教育支援活動の取組が進んでいることは評価できる。一方で、アウトリーチ講座など他の取組において、依然として実績が目標を大きく下回っていることは、やむを得ない部分もあるが、今後に向けて、対面式によらない方法の導入も活用しながら、教育普及の取組を進めて欲しい。 コロナの影響で利用者数や開催回数等が目標に達しなかったのは、やむを得なかったにせよ残念。博物館の主要な役割であり、なお一層頑張っていたきたい。 関係機関との連携はよくなっている。目に見える成果が少しでも顕著になると、連携がさらに強化されるものと思われる。 例年3月に開かれている「宮崎の自然」研究報告会が、今年も中止になり、大変残念である。今後、リモートやハイブリッド形式も視野に入れ、開催を検討していただけたら幸いである。 ①学校教育支援のうち授業への支援は、館職員が多忙な時間と労力をさいており、価値ある貢献の一つと思う。②「どこでも博物館」事業の離島や支援学校での開催は快挙。今後も文化・教育普及の機会の平等を意識し、目配りしていただきたい。③イベントで構成された「海さんまい事業」の登場には新鮮な驚きがあった。行動する博物館、として面目を一新した感がある。総花的な講座を整理し、テーマを中心に据えた参加体験型の講座への可能性が開かれた。「山さんまい」はもちろん、「古墳さんまい」「戦国さんまい」など、多様な時空間をテーマとした展開が考えられる。 	
	教員支援		0回					
	資料貸出		5回					
	職場体験学習受入		0回					
	博物館実習受入		2回					
			計 25回					
2) 展示解説	実施人数	年10,000人	5,579人	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症の影響による団体来館が減少した影響もあり、展示解説を受けた人数は前年度に引き続き目標人数を大きく下回った。今後も来館者への声かけや事前広報に取り組み、利用者の興味や関心を高めるようなより分かりやすい工夫を行い、多くの来館者に展示解説を実施していくとともに、遠足等での利用を推進できるよう広報活動を実施していく。 	1			
3) 博物館講座等	博物館講座等 (アウトリーチ活動含む) *博物館講座等は普及講座・特別展開連講座・民家園講座・「どこでも博物館」 *アウトリーチ活動は博物館外で行った講座の回数	年35回 アウトリーチ活動10回	計画45回 実施36回 10回	<ul style="list-style-type: none"> 主催講座は、普及講座(26回:5講座はコロナ、1講座は天候不良で中止)と特別展開連講座(11回:1講座はコロナ、1講座は資料の未成育で中止)、民家園伝統文化体験講座(1回)、どこでも博物館(3回)であり、令和3年度では助成金を活用した海に関する講座(4回:1講座はコロナで中止)も実施し、コロナ禍ながら目標値をクリアした。 令和3年度は、人数制限など感染予防の措置をとる工夫をして講座の開催を行ったため、令和2年度と比べ中止とした講座は少なかった。 講座の回数もさることながら、博物館や宮崎の自然や文化に、より興味をもつように誘う内容の講座を企画すると共に広報活動を工夫して継続していきたい。 	3			
4) 民家園の活用	民家園事業の実施 ・神楽公演等 ・みやぎの昔話 ・昔のくらし等 ・民家園利用事業 ・その他	年25回	17回	<ul style="list-style-type: none"> 毎月第3土曜日に開催している昔話公演は、コロナウイルス感染症により5、8、2月は中止になったものの、7月には2階作小屋で怖い話を集集し、幅広い年齢層に喜んでいただいた。 昔のくらし体験では、11月に内山こども園と住吉南小学校が民家園ボランティア協力のもと脱穀機や唐箕、火起こしなど様々な体験を行い、好評であった。 正月準備体験では、コロナウイルス感染症の防止に努めながら、大掃除や餅つきを行った。多くの参加者があり大変好評であった。 民家園春まつりでは、昔のくらし体験や昔話公演、落語や琴、民謡公演など催し物を充実させたことにより、幅広い年齢層に喜んでいただいた。 民家園利用事業については、コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、7団体に活用していただいた。内容は、外国人を対象にした着物の体験や生け花体験、コスプレ撮影交流会などであり、伝統文化の伝承や民家園の周知に繋がる事業となった。 	1			
5) 関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 職員の派遣 他機関からの職員等の招聘 視察や調査の受入 資料貸出、出版等掲載 資料の借用、他機関調査や視察 共催事業の実施 	年120件	155件	<ul style="list-style-type: none"> 職員の派遣は自然史系を中心に植物分野と地質分野が中心で学校教育機関に講師や委員として職員を7件18回派遣した。関係機関等の職員は講座の講師や調査研究員として15件16名の招聘を行った。 視察や調査の受入は9機関、館外資料の貸出しは25機関、資料の館内利用が20件、出版物等に掲載・放映された資料などは22件であった。また、本館の展示や調査研究で協力を得た関係機関は45機関あった。宮崎大学及び名古屋大学博物館とは連携した事業を継続できている。 	4			

6)博物館と福祉施設との連携	福祉施設との事業実施	年80回	28回	・博物館で思い出を語ろう！については、高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象として、公募のあった3団体に、テーマ地域回想法を実施した。コロナウイルス感染症の拡大により、目標回数を大きく下回ったものの、手指消毒や高齢者同士の間隔を空けるなど感染拡大の防止に努めることができた。 ・福祉施設が自分の施設内で回想法を実施する際に利用していただくために、「昔の道具」や「おもちゃ」をパッケージにした「貸出キット」を4団体4回の利用があった。	1	1.9	2.5
7)研究発表会の開催	研究発表会の実施	年1回	0回	・自然科学系の9団体で構成される県内研究団体の発表会を3月に計画していたが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止した。	1		

(5) 情報発信

項目	評価指標		令和3年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1)メディアを通じた情報発信	広報紙発行	年4回	4回	・広報誌「みやはく通信」を9月と4月の2回(第1号・第2号)発行、「博物館わくわく通信」を4月と10月の2回(vol.15・vol.16)発行し、県内の学校や博物館、図書館、公民館等の公共施設などに配布するとともに、ホームページにも掲載した。 ・博物館の情報を報道機関に提供する報道処理件数は55件であった。その報道処理等によりマスコミが報道した件数は、196件であった。 ・今後も館内の広報推進会議で、新たな広報手段に取り組み情報発信に努めていく。	3	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新並びにアクセスが大幅に増加したことは大いに評価できる。コロナ禍からできないではなく、やれることを職員の皆さんがしっかり熟考され、取り組んでおられる成果だと思う。 ・InstagramからTwitterまで、現在普及しているSNSを全て網羅した情報発信は素晴らしいと思います。また、ホームページもキャッチーなトップページに始まり、詳細な内容まで見やすいページ作りがなされていたと思います。SNSをオープンしても、その後の更新が最も努力のいる事だと思いますが、見事に対応されていると思います。 ・コロナの影響で直接来館できない方もいると思われる。コロナ禍だからこそ積極的に博物館の様子を発信されていることは大変素晴らしいことである。職員の皆様の努力とサービスの姿勢が伝わってきます。 ・ホームページのアクセス数が増えることは県民の興味関心が高いということなので喜ばしいことだ。 ・広報誌、各種メディア、HP、SNS等を積極的に活用して、情報発信の努力をされていたと思います。 ・メディアを活用しての情報発信、博物館前の看板は個人的に印象に残りました。 ・SNS時代では内容と同様、投稿頻度も重要だと思うため、年間投稿回数はとても素晴らしいと思う。 ・ホームページの更新やSNS、ホームページのアクセス数の実績など、情報発信の取組はどれも目標を大きく上回るものであり、大いに評価できる。これらの取組が、入館者数増加という実績にも繋がったものと考えられる。引き続き、情報発信の充実強化に取り組んで欲しい。 ・情報発信(特にインターネット)に関する関係者の努力の跡が伺え、評価できる。 ・基本的に博物館そのものの魅力度アップを継続的に取り組みながら情報発信をうまくリンクさせてほしい。 ・コロナ禍でも来館数が増えたのは、情報発信をしっかり行ったことも1つの要因だと考えられる。評価指数としては回数ベースであるが、発信する情報の質の向上に関する努力も継続頂きたい。一方で、職員の負担も増えるので、来館者の年齢層の特徴と、情報発信媒体のマッチングも一度分析し、より効果的な情報発信が何なのか、検証してみると良いのではないかと。 ・メディアを通じた情報発信のうち、日刊紙のなかでも「宮崎日日新聞」の掲載数が群を抜いている。感謝状のものである。 	
	報道処理件数	年50件	55件		3			
2)ホームページの充実	ホームページ更新回数	年60回	年546回	・令和3年度途中の文化財課サーバ移設により、これまで実施してきたアクセス数のカウント方法が使用できなくなった。新しいカウント方法では、アクセス数がこれまでより大幅に小さくなった。従来と新しい方法の両方のアクセス数が分かる4～6月のデータから従来カウント数と新カウント数に23.5倍の差(従来/新)がある事が分かった。この23.5倍という数字をもとに目標値を21,000件に再設定し、評価を行った。今年度のアクセス数は357,683件であり、目標値の約17倍のアクセス数となった。 ・SNSでは博物館の身近な話題などを積極的に投稿し、Instagramでは年間106件、Facebookでは年間129件、ツイッターでは年間146件の投稿を行った。	4	3.9		
	ホームページアクセス件数	年500,000件 ※再設定した目標値21,000件	357,683件		4			
	SNS投稿回数 ・insta ・FB ・twitter	年300回	381回		4			

(6) 経営

項目	評価指標		令和3年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1)博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	3,891件	・アンケート収集件数については、夏の特別展「絶滅モンスター展」がコロナ禍ながら開催することができ、2827件のアンケートを回収でき、目標数を大きく上回ることができた。また、本館サービスに対する満足度は集中アンケート期間では97%、全体アンケートでも93%となり、目標を大きく上回った。 ・今後もアンケートの積極的な回収に努め、利用者の意見を館の運営に活かしていく。	4	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの満足度が令和2年度94%、令和3年度93%と高い数値を維持しており、高く評価できる。昨年度もお願いしたが7%の方が満足できていない(やや満足できていないなど)という回答があるが、どのような意見が出たのか知りたい。少数意見は大事である。 ・危機管理体制の強化において、救急講座(AEDの取り扱い)や防災訓練の実施をされたことは、防災対策への意識高揚や来館者の安全・安心を確保する上では大切な取組であり、評価できる。 ・予算が少ない中で外部資金を獲得されたり、企業とタイアップされたりしながら、企画の予算を獲得して良く頑張っておられると思います。 ・アンケート収集件数や全体満足度が大幅に目標値を上回っていることは素晴らしい。 	
	集中アンケート実施回数及び満足度	年4回 満足度80%	4回 97%		3			
	全体満足度	80%	93%		3			

2)職員の資質向上	研修の実施と参加	年20回	23回	<ul style="list-style-type: none"> 基本研修では、全職員向けのコンプライアンス・危機管理・人権研修等について4月、3月の2回実施し、3月には学芸課職員による調査研究報告会を実施した。学芸課職員向けの研修として、資料梱包及び運搬の技能研修を実施し、計年4回の実施となった。また、県外研修等として、関係職員が学芸員研修会や協議会研修会などに参加し、職員の研修機会の確保と資質向上を図ることができた。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国立科学博物館などの全国規模に研修会のいくつかはオンラインで実施された。 展示解説員の研修として、宮崎市を訪れ、植物、地質、民俗などの実地見学を行った。新任解説員は職員に対しては、各分野の解説研修を行い、資質の維持向上に努めた。3年目研修では自己学習した内容を発表する研修を実施した。 今後も引き続き館内外の研修の機会を確保し、職員の資質向上に努める。 	3	<ul style="list-style-type: none"> アンケート収集件数が目標を上回ったことや入館者の満足度の高さが経営の評価につながったのではないだろうか。職員の資質向上に向けてもオンラインも取り入れながら研修を計画的に進めていたことがわかりました。 建物は年季が入っているため、館の運営、入館者へのサービスにも心遣いが必要な点があるのではと考えます。 防火訓練が延期となった際（年度内に実施できなかった）資料などの配布だけでも行ったのか気になった。 来館者へのアンケートによる満足度は、いずれも目標を上回る高い数字となっており、大変素晴らしい。県民のニーズを的確に捉えた取組を進めていることが窺える。また、職員の資質向上のための研修もしっかりと取り組んでおられるので、評価できる。3年度は、外部資金の獲得も目標を達成できた。経営改善という視点から、今後は、さらにこの取組の強化を期待したい。 アンケート対応は良くできている。 職員の資質向上等も引き続き頑張ってください。 内部評価にあるように、順調な経営が進んだものと評価します。 すべての項目で指標を達成できている点は評価に値する。アンケートは目標を大きく超える数を収集されており、関係者の努力に敬意を表したい。ただし、ほとんどが特別展でのアンケートなのが気になる。特別展以外でのアンケートの収集も同程度になるように、より回答を行ってもらえるような仕組み作りに期待したい。回答者の年代についても、10代以下で半分以上となっており、20代以上の回答数を増やす努力が必要と考える。オンラインアンケートの導入は、自宅に帰ってからでも回答してもらえるのでは是非検討頂きたい。 外部運営資金の応募と獲得されたのは良かった。これまでのところ講座開催費や特別展開催費等、行事のためのものがあるが、今後は学芸員の調査研究についての外部資金獲得も目指してほしい。 貴館には1971年建設当初の設備のままのところがあり、最新の資料保存環境を用意できいるとは残念ながら言い難いのではないか。財政の厳しい時代ではあるが、貴重な文化財を将来の県民へ継承するため、館の建て替えを検討されることを強く要望したい。評価基準の設定が高すぎるもの（例満足度が96%）があり、やや緩和してもよいような気がする。 「展示」で述べた通り、来場者アンケートの結果に関心と満足度の高さが表れている。外部資金の獲得も評価できる。 今思うと、新型コロナウイルス感染拡大以前の博物館をはじめとする宮崎県の文化活動は盛んなものがあり、自分もさまざまな活動に参加することで楽しみながら宮崎について知り、親しみの念を深めることができた。いまだに低迷の感がぬぐえないなか、宮博では「海ざんまい事業」など注目すべき活動も見出せる。今後見込まれる感染拡大の収束の後、苦しい経験が生かされたさらなる飛躍を期待している。 	3.3
3)危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	2回	<ul style="list-style-type: none"> 4月に、全職員を対象とした危機管理マニュアル及び消火活動に関する研修とともに、AEDの取り扱いを含めた救急講座を実施した。6月には、日向灘南部を震源とする震度5の地震を想定した防災訓練を実施し、避難誘導や伝達訓練を行った。 例年、民家園において実施する宮崎北消防署・埋蔵文化財センター分館職員及び民家園ボランティアと合同の防火訓練は1月を予定していたがコロナ感染症の拡大を受けて2回延期したが、年度内には実施できなかった。 今後も、利用者の「安全」「安心」の確保のため危機管理体制の強化に努める。 	3	3.2	3.3
4)外部運営資金の獲得	外部運営資金への応募件数 * 県基金、公共機関助成金・補助金、民間の助成金・補助金	年2件	2件	<ul style="list-style-type: none"> 博物館講座開催経費に係る外部資金として、公益財団法人日本海事科学財団の「海の学びミュージアムサポート」へ助成金申請を行い支援を受けた。この助成金により、海と遊べ！博物館「海ざんまい事業」として合計10回の講座を企画、実施した。 秋の特別展「発見！きのこランド」では一般財団法人全国科学博物館振興財団に助成金申請を行い、支援を受けた。 	3		
				その他の ご意見	<ul style="list-style-type: none"> 評価指標の「目標値」で実態にそぐわないものがあるように感じた。例えば、教育普及の（6）福祉施設との事業実施、情報発信のホームページ更新、アクセス数、経営のアンケート収集件数など。今後再検討すべきと思う。 研究紀要、今回は県北の研究が多くあり関心を持つことが多数ありました。 第3期中期運営ビジョン評価表資料2(4)の(3)他の関係機関と共催で行う企画展や国内外からの巡回展も積極的に開催する。歴史・民俗分野では、世界の文化を紹介するところも多くなっています。このような大きな企画はいかがでしょうか。 ホームページでは刊行物の欄にPDFの年報を掲載しているが、研究紀要もPDFで掲載したら如何でしょうか。 <p>【表記や用語についてのご指摘】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育普及の（1）学校教育支援の内部評価「評価・改善策」で、「学校受け入れ校数・・・」とあるが、保育園・幼稚園・認定こども園を含むため、本来は「学校等受け入れ数・・・」ではないか。 ②教育普及の（4）民家園の活用の内部評価「評価・改善策」で、「毎週第3土曜日・・・」とあるが、「毎月第3土曜日・・・」ではないか。 ③経営の（1）博物館協議会や県民の意見の尊重の評価指標「内容」で、「アンケート収集件数・・・」とあるが、「アンケート回収件数・・・」ではないか。 ④経営の（4）外部運営資金の獲得の内部評価「評価・改善策」で、の2つ目の「・・・一般財団法人全国科学博物館振興財団・・・」とあるが、宮崎県総合博物館年報令和3年度のP81には「・・・一般財団法人宮崎県教職員互助会・・・」とある。どちらが正しいか。 		